

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

和歌山の 農業士

2015
3
March

地域農業をリードする熱き農業者達

第4号



はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が互いの活動を共有し、関係者の皆様や一般の方々へも広く積極的に情報発信していくため、作成しています。

農業士が長年の農業経験で培ったその経営観や考え、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

<巻頭言>

- 本物の作物は旅をする (和歌山県農業士会連絡協議会 副会長 庄門 孝浩) …… 1
ウメ産地の新たな時代に向けて (和歌山県果樹試験場うめ研究所 所長 赤木 芳尊) …… 2

<私の農業>

農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

- 自然環境を考慮した完熟みかん栽培 ～美味しく、安心安全、健康になるみかんの追求～
(海南市 指導農業士 岩本 治) …… 3
- ゼロからの出発、ブランドが形を変え新たな分野で仲間作り
～6次産業化の取組み 桃ジュースの開発～
(紀の川市 地域農業士 中浴 泉) …… 5
- 残れる農業を目指して ～売れる安全安心・高品質作物～
(橋本市 指導農業士 森口 佳幸) …… 7
- 大自然を友に こだわりみかん (有田市 指導農業士 総田 至) …… 9
- 安定して品質のよい切り花を届けるために ～カスミソウを中心とした複合経営～
(御坊市 地域農業士 矢野 公章) …… 11
- 農業は、人との出会いとつながり ～地域活動で得たもの～
(田辺市 指導農業士 田中 一正) …… 13

<農業に懸ける想い>

青年農業士や新規就農者、農業研修生が農業への熱い思いや取り組みを紹介

- 「見せる」「伝える」農産物 ～消費者によるこびを～
(海南市 和海地方4Hクラブ連絡協議会 秦野 英和) …… 15
- 果樹農家から複合経営へ (紀の川市 農業研修生 羽竹 隆祐) …… 16
- 柿の高品質栽培を目指して (橋本市 青年農業士 新田 芳久) …… 17
- 高品質果実生産で高収益を!! (有田川町 青年農業士 尾崎 行雄) …… 18
- 今が踏んばり時 (みなべ町 青年農業士 中本 朋章) …… 19
- 「省力化」を目指して (田辺市 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会 竹中 勇貴) …… 20

<県農業大学校学生です。>

農業大学校1年生の自己紹介(第2回) …… 21

- 坪井 雅弘 手平 康介 中山 大地 西平 充幸
東 香々美 平林 拓真 古田 崇人 堀川 穰
前山 尚輝 松木 朝彦

巻頭言

本物の作物は旅をする

和歌山県農業士会連絡協議会

副会長 庄門 孝浩



はじめに、地域振興のため活躍されている農業士会会員の皆様をはじめ、ご協力をいただいています。県、市町村、JAなどの関係機関の皆様には厚く御礼を申し上げます。

さて、農業の情勢は相変わらず、「高齢化の一方で、後継ぎが育たない」、「忙しくて、休みがないからしたくない」、「不景気だから仕方がない」、「儲からないから、親は継がせたくない、子どもは継ぎたくない」といったような、暗いイメージばかりが独り歩きしているように感じます。

そんな時代を生きる農業士として少しでも、地域農業の振興と活性化に役割を果たせるように、産地の維持、存続に努めたいと思っています。

私は、日高地方で高糖度房どりミニトマト「赤糖房」を栽培しています。先人たちが築いた産地のブランドを受け継ぎ、次の世代に伝えることが、私の使命だと思っています。

トマトは全国どこでも栽培できるため、高い技術を持った篤農家が多く存在すると同時に、消費者のニーズは多種多様で、市場でも競争が激しい品目です。

そのために、ただ作物を作っているだけの農業ではなく、足腰の強い経営が必要です。

常にコスト意識を持ち、単位面積当たりの生産性を上げるため、先人たちの技術を継承しながら、現状に満足することなく、新しいものにも果敢に挑戦

したいと思います。

また、「あいつは、いつも明るく、農業を楽しんでいるな」と周りに思われて、若い世代や子ども達が「農業をしてみよう、跡を継いでみよう」と次の世代の担い手育成の一助になれば幸いです。

一方、他産業や、農業でも法人経営など大規模な経営の中には、必要以上に規模拡大を行い、新たな施設設備や機械に投資が増え、維持費や高い人件費が重なった結果、経営が圧迫されて、廃業や破綻や撤退している例もあります。いたずらに規模拡大をするのではなく、現状の経営を考えようでの適正な規模拡大と投資が必要だと思います。

本物の作物は旅（口コミ、営業、評判）をします。作物が旅をしてくれて、産地やブランドや自分を育ててくれると信じています。今の私は自分の目や手が作物に届く規模で、常に作物と向き合い、真剣勝負をしたいと思っています。

福澤諭吉氏は、こういう言葉を残しています。「世の中で一番楽しく立派な事は、一生涯を貫く仕事を持つという事です」。日本の農業の情勢は厳しくて、予想がつかないけれど自分の可能性を信じて、目の前の凸凹道を歩んでいこうと思います。

最後になりましたが、私は浅学非才の未熟者です。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げますとともに、農業士会の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念申し上げます。

巻頭言

ウメ産地の新たな時代に向けて

和歌山県果樹試験場うめ研究所

所 長 赤 木 芳 尊



農業士の皆様におかれましては、日頃より地域のリーダーとしてご活躍され、地域農業の振興に尽力されていらっしゃることに敬意を表すとともに、うめ研究所には格別なるご指導とご協力を頂いておりますことを厚く御礼申し上げます。

さて、うめ研究所が開設されて11年が経ち、これまで次の4つの研究テーマに取り組んできました。

①高品質安定生産技術の開発②新品種の育成③新加工商材の開発④エコ農業の推進

その成果として、摘心による効率的な多収生産法や土壌タイプ別の肥培管理法の確立、重要病害虫の防除技術の開発、機能性成分を高める栽培法の確立などの実用的な技術開発を行いました。また新品種の育成では、自家和合性で豊産性の「NK14」、機能性成分のβ-カロテンが豊富で抗酸化能に優れる「橙高」の2品種を育成し、平成21年に品種登録をしました。

このような成果を、年度末に紀州うめ研究協議会と連携して研究成果発表会で報告させて頂いております。また、各地域の農業士の皆様には、当研究所において頂き、研究員との交流を図るとともに、意見交換や要望など、研究課題への提言を頂いております。これらの機会を通じて、今後の研究テーマの参考にしたいと考えております。

近年、わが国の梅干し消費量は減少してきており、総務省の家計調査によると、ピークだった平成14年に比べて、平成25年には約7割に減少しています。こうした中、当研究所では和歌山県工業技術センターや加工業者等と連携して、ウメの消費拡大が期待できる新しい商品の開発に取り組んでいます。具体的には、果皮と果肉が赤色で、アントシアニンの豊富な「露茜」を使った新しい赤色の梅酒や、β-カロテンの豊富な「橙高」を原料とした、卵アレルギーに対応したマヨネーズ風ドレッシングの開発を進めております。

平成27年度は9月に「紀の国わかやま国体」が開催され、和歌山県が大変注目される年であります。これを契機として、高品質で味が良く、機能性成分が豊富な和歌山県の農産物を全国の皆様に味わっていただければ消費拡大が期待できます。今後経済効果を加速させるためには、生産組織単位で農産物の栽培面積や、生産量等の目標を立てることと、地域をまとめるリーダーシップを発揮することが重要となります。農業士の皆様には将来への明確なビジョンを持って、地域農業の牽引役としてご活躍いただきたいと思っております。当研究所も、皆様方の忌憚のないご意見を賜りながら、ウメ産地のさらなる発展に向け、強い使命感を持って、技術開発等に取り組んでいく所存です。

私の農業

自然環境を考慮した 完熟みかん栽培

～美味しく、安心安全、健康になるみかんの追求～

海南市 指導農業者

岩 本 治



1. はじめに

生まれは有田市のみかん農家で、大学在籍中は建築設計事務所で勉強させていただいて、建築学部を卒業してから建築会社の住宅の設計・営業で大阪や熊本など支店を移動して5年後、下津町で就農しました。

就農当初は共販でしたが、自宅前に作業所・土壁の貯蔵倉庫を含む倉庫を建て、個人販売体制に変えていきました。

栽培品目はみかんを主とした柑橘専作で、エコファーマーは平成14年から、特別栽培は平成17年から、それぞれ認定されて実施しています。

また、いろんな農業研究グループにも所属し、地元の小学生の摘果作業や体験学習を10年以上続けています。

2. 農業経営の特徴

○現在の栽培品種

8月に青みかん（摘果みかん）、10～11月に日南早生、YN26、11月に木村早生、11月末～1月上旬までゆら早生、12～1月上旬まで宮川早生・田口早生・川田、1月に石地、2月から3月に丹生系・今村、3～4月に不知火・春峰・はるか、それにそれぞれの季節でレモンとなっています。今、6～7月まで出荷できる晩柑品種にも取り組んでいます。

○栽培方法

高品質な果実を生産できるように、春先の芽と花のバランスを考えて剪定方法や有機肥料の内容、時

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	150 a
不知火	20 a
その他柑橘	約30 a
○労働力	
家族	2人



小学生の体験学習



草生栽培のほ場

期などを決めています。そのうえで微生物を含めた土壌の環境を整えることが重要だと考え、春草は刈り取ることも除草剤を使用することもせずに、みかんととの相性を考えたアークトセカやヒメツルソバなどいくつかの草種を導入し、良いものを年間通して取り入れようと考えています。防風樹の種類も含め畑の環境をトータルで考えることによって、病気や害虫も少なくなり、結果として農薬をほとんど散布しなくてもきれいなみかんを生産できるように考えています。また、海水や天日塩も樹の状態を見極めて使用していますが、栽培環境からマルチなどの資材は使用はしないで糖度を上げます。

○販売

最初に市場で個人販売するときに、女性デザイナーに依頼してみかんのダンボールを作りました。平成18年から始めた個人ネット販売では、ホームページのデザインをイラストレーターに依頼し、私の昔からの農園名はマルヨ農園なので、「マルヨちゃん」というキャラクターも作ってもらい使用しています。ネット販売用も含め、みかんがお客様のお手元でも出来るだけ腐らないで、味も変わらないように収穫や貯蔵方法、荷造り選別、発送ダンボール内容などすべてに神経を使っています。おかげさまで9年間のすべての販売で2件のクレームで終わりました。ネット販売用には kankitu.com や、昨年取得した mikan.farm といったみかんに関する独自のアドレスを取得しています。同じく平成

18年からネットのブログを初め、SNSの mixi や Facebook、ほかにもいろんなネットでの情報を1年間ほぼ休みなく毎日発信し、ネットでみかん農家といえば私が出てくるようになっていきます。

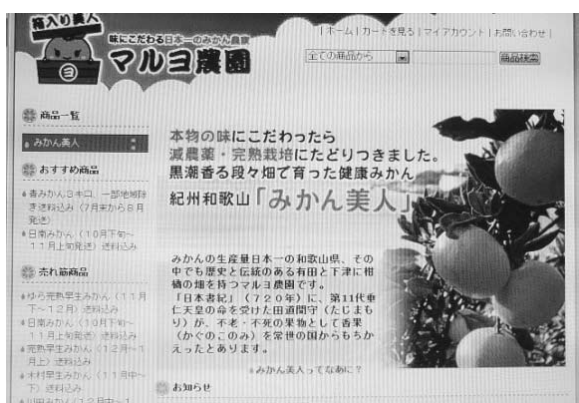
そのほか、異業種との交流は平成16年から初めて全国いろんな業種の方と知り合い、専門書を含め雑誌などの記事依頼もあり書いています。こちらの記事を見られた方からの電話やメールでの注文もあるのでありがたいです。

3. 今後の経営方針

市場出荷とネット販売を主とし、ネットに関しては長期間販売できるようにしたいと考えています。そのため出荷期間が長く、労力を分散できるように、品種構成を畑の環境にあったものに限定します。異常気象で温暖化が進む中、有機栽培にはこだわりませんが出来るだけ農薬を使用せず、同じ糖度でもよりおいしく内容成分までこだわった栽培をして、食べる人がすごく喜ぶような高品質なみかんを作ります。そして体力が衰えても出来るような栽培方法も考え、必要に応じて畑の整備をします。

4. おわりに

同じみかん栽培でも、作る場所や土地の条件、品種によって栽培方法も違うことも多く、ましてそれぞれの人によって、体を動かすのが得意、考えるのが得意、剪定や摘蕾などが得意、販売が得意などと得意不得意分野が違います。自分が楽しければ一番ですが、苦しくても長く続けることが出来るものを、いろいろやってみることが大事だと思います。そこで得られた経験をもとに、自分が作りたいものを常に頭のどこかに置くことで、不思議と畑で見過ぎていたもの、見えていなかったものが見え、聞き流していた情報、見過ごしていた情報も見えてきてきました。これがほんと不思議なのです。そうなると俗にいう点がつながって線になる現象ができてくるので面白いです。



「マルヨ農園」ホームページ

私の農業

ゼロからの出発 ブランドが形を変え新たな分野で仲間作り ～ 6次産業化の取組み 桃ジュースの開発 ～

紀の川市 地域農業士

中 浴 泉



1. はじめに

身内の建設会社で24年勤務しましたが、あることを機に就農する事になりました。それは桃の選果場でアルバイトしていた時、後に私の師匠になる方の桃の収穫のお手伝いをさせて貰った事から始まります。その時、師匠から「私は農業が大好きや。農業するんだったら全面的に応援するからやってみるか？」と勇気付けられる事を言って頂き、二つ返事で「やります」と農業に一步を踏み出しました。栽培技術、畑の貸借、作業場の確保、最初は収入が少ないからと師匠が代表者の農業法人での臨時の仕事の紹介と至れり尽くせり、物心両面で支えてくれ、この出会いに感謝しています。現在は、3名の農家と加工販売担当者1名で（株）八旗農園を設立し、6次産業化に取り組んでいます。昨年、事業者認定を頂きビール原料用ピューレ、ジャム、ソースなどを取扱っています。

現在、桃のストレートジュースも開発中で、他に農家の依頼でジュース用原料などの加工業務も行なっています。

2. 農業経営の特徴

○栽培

こだわっていることは、もみ殻、ぬか、油粕、放線菌を利用した堆肥づくりを行っています。

また、環境技術コンサルティング会社と共同で

農業経営の概況

○作付品目と面積	
桃	130a
梅	25a
○労働力	
家族	2人
常雇用	1人
臨時雇用	数人

ソーラーパネルを利用して桃の木に10ボルトの電流を流し、肥料、ミネラルの吸収率を高め、毛根発育を活性化させることで防虫効果が期待出来る試験を実施するとともに、除草剤の散布回数も極力減らした環境保全型農業にも取り組んでいます。

桃は個人扱いで農協への出荷と（株）八旗農園の運営する直売場と加工場へ出荷しています。



桃の木に10ボルトの電流



八旗農園（桃直売所）

○加工

桃はパルパー方式で液状化にして加熱処理後に真空パック、冷凍保存するまでの1次加工を行っています。具体的には、桃ピューレをビールの原料（約1000kg）や冷凍ピューレでの販売（約4000kg）、ジュース用原料加工業務などです。

加工場の労働や衛生管理については、県食品流通課主催のフードコミュニケーションプロジェクトに参加し、食品衛生の工場の指導を受けるとともに食品加工技術農産物活用研究会へ参加し、新技術等の情報収集を行っています。



6次産業化へのチャレンジ

○担い手育成

当農園には20代4名、30代1名の就農希望の

研修生がいて全員非農家です。2名は現在先進農家で研修中、3名は今年県農業大学の社会人課程に入学準備を進めています。非農家から就農した私の経験を全て伝えて行きたいと考えています。

3. 今後の経営方針

これからは、新機能・高付加価値化、新食品産業への展開など、地域資源を活用した新規需要開拓が重要です。

例えば、過熱水蒸気による加工食品の品質向上や機能性及び安全性向上、冷凍技術を活用してカットフルーツや冷凍焼き芋など消費者ニーズに応じた安全・安心で、すぐに食べられる食品の需要があると思われます。

6次産業総合化事業計画認定を頂き、本格的に生産、加工、販売を目指す準備を整える事が出来ました。まずは冷凍ピューレ販売事業に特化し、ジュースが完成して事業化の目途がたてばビン詰め工場の増設も考えています。

4. おわりに

農業の現状を考えると高齢化と後継者不足が重なり、地域の農地が余って来ると思われます。現在6名（農家後継者1名含む）の研修生支援をJAや地域の方々のお世話になりながら取り組んでいます。生産、加工、販売を通じて農業の楽しさ、世代を超えて地域のコミュニケーションが出来る環境を作り「明るく、楽しく、朗らかに」をモットーに頑張りたいと思っています。

私の農業

残れる農業を目指して ～売れる安全安心・高品質作物～

橋本市 指導農業士

森 口 佳 幸



1. はじめに

私は、和歌山県農業大学校を卒業後、即、家業である農業に従事しました。

早くも35年が過ぎました。農業に従事したときは両親と一緒にしていたので、柑橘類200a（みかん150、八朔50a）、柿150a、すもも50aで経営していましたが、10年前に父親が亡くなってからは、母親と2人で農業をやっているのです。現在の規模で毎日農業に向き合っています。

2. 農業経営の特徴

安全安心が強く求められているなか、低農薬、減農薬を目標に栽培に取り組んでいます。しかし、柿は年によっては春先の遅霜、カメムシの大発生などの被害を受けて、生産量が減少し所得に大きく響

ています。

これからは、堆肥などを施用して、樹体を根本から力強くし、病害虫や自然災害に強い樹を作り、安全安心な作物を栽培して行きたいと考えています。

農業経営の概況

○作付品目と面積

刀根早生	50a
平核無柿	10a
富有柿	50a
梅	10a
水稻	8a

○労働力

家族	2人
臨時雇用	2人



収穫を待つ富有柿



やま柿（台木）

3. 今後の経営方針

現在は、柿中心による経営ですが、これから周辺に多くある休耕田を利用して野菜などを取り入れることも視野にいれ、経営の改善を図っていきたいと考えています。

また、生産、加工、販売を一貫して行う6次産業を見据えた取り組みにも挑戦し、地域の人々と知恵を出し合って活性化を図っていきたいです。



柿と筆者

4. おわりに

農業には定年はないと思っています。

健康に留意して、農業者として、そして農業士として地域の農業振興にお役に立ちたいと考えています。



落葉後の柿ほ場



剪定作業中です

私の農業

大自然を友に こだわりみかん

有田市 指導農業士

総 田 至



1. はじめに

私は、県立海南高等学校を卒業後、昭和43年に就農しました。

我が家は、就農当初から現在まで温州みかん主体の経営ですが、当初はほとんどが晩生で、早生はごくわずかでした。その後、徐々に早生を増やし、現在のよ

うな早生中心の品種構成になりました。

経営面積については、借地をして若干増えています。

2. 農業経営の特徴

所得を上げるため、ただ面積拡大すればよいというものではありません。みかんは最終的には味であり、面積を増やしたために管理がおろそかになっては元も子もないので、目の届く範囲でやるのがよいと思っています。

○生産面での取り組み

栽培管理全般について言えることですが、何よりも味を優先しています。

まず栽培品種ですが、自分の園地に植えてみて味を確認してから増やすことにしています。今は数年前に導入した田口早生が成り始めており、そろそろ判断の時期にきています。

施肥は有機質肥料のみを使い、葉面散布はあくまで補助的なものです。化成肥料は使っていません。20代の頃、かん水施設の工事であちこちへ行っていたのですが、工事現場近くで年明けに取り残したみかんを食べて、美味しくなかった事がありました。聞くと化

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	170a
（品種）早生	90a
中生	30a
晩生	50a
中晩柑（伊予柑等）	40a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	7人

成肥料だけで栽培している園地との事でした。

また、省力化を図るために多目的スプリンクラー導入も考えました。しかし、農業コストが手散布の約1.5倍かかることと、何より手散布だと散布時に害虫の発生状況等を細かく観察できるので、施設導入を止めました。



園地風景

○販売・流通面での取り組み

我が家は個選出荷で、関西を中心に関東市場へも出荷しています。個選なので、販売店を通じて消費者の声が耳に多く入ってきます。みかんは最終的に「うまいか、うまくないか」であり、果実選別に関しては、傷のある物（癒えた傷）にクレームはありません。

収穫果実を貯蔵する倉庫については、倉庫自体は鉄骨なのですが、内側に土壁を付けています。貯蔵期間中に南風が吹くと、結露して選果ができただけでなく、乾湿の差が大きくなり貯蔵性が落ちます。しかし土壁だと、みかんが萎びたり、逆に皮が厚くなったりせず、適度に予措ができて満足しています。

○有田市原産地呼称管理制度

また、有田市が創設した、特産品、特に有田みかんブランドの高品質なものを公的部門が認定・管理する『有田市原産地呼称管理制度（有田市認定みかん）』には、制度の始まった平成22年度から申請していて、我が家のほとんどの園地で認定を受けています。

これは、生産者が申請しようとする園地の果実サンプルを提出し、①市内で栽培されていること、②糖度12度以上、酸度1.0%以下であること、等をクリアしたみかんを認証するものです。ちなみに私は、この制度の委員も務めています。

「この認定をもらえば高く売れるのか」という質問を良く受けますが、認定はあくまで品質の保証であり、自分なりに宣伝していくべきものだと考えています。現在、この認定マークを貼って販売している量はわず



こだわりの出荷ダンボール

かですが、市役所ホームページを見て、全国各地から電話がかかってくるので面白い部分もあります。



鉄骨倉庫内側の土壁

3. 今後の経営方針

現在の作付体系で、労力配分はほぼ理想的な形になっていると思います。

中晩柑については、甘夏をより販売しやすい不知火に更新するかどうか考えています。

しかし、どの品目でも味を第一に良い物を作れば、お金は取れます。確かに、雑柑は以前より単価が落ちましたが、甘夏や八朔、伊予柑などでもコアなファンが付いています。

4. おわりに

若い頃は色々な栽培技術や資材を試しましたが、父親の調子が悪くなって管理が十分出来なかった年の方が、良いミカンができた事がありました。その時、相手は生き物であり、強引な手入れはダメだ、と感じました。

みかんは自然が作り、それを上手に手伝ってやるのが百姓の務めで、あまり自然に逆らった作りはしたくありません。多少の手伝いはしても、強引な栽培をすれば、ろくな事はないと思います。

私の農業

安定して品質のよい切り花を届けるために ～ カスミソウを中心とした複合経営 ～

御坊市 地域農業士

矢野 公章



1. はじめに

私は、昭和 61 年に高等学校を卒業し、愛知県渥美半島の電照ギク農家へ研修に行った後、昭和 63 年に就農しました。

就農時には、カスミソウ 30a、スイートピー 3a 等から経営を開始しました。その後、規模拡大を図るため、平成元年にはハウスを建設し、さらに電照ギク 15a の栽培を始めました。平成 8 年頃からは、電照ギクの栽培を中止し、より効率的な経営を行うため、カスミソウ 45a とスターチス 10a の経営に切り替えました。その後は、徐々に面積を増やしながら、カスミソウを中心に年間を通して出荷が出来るよう努めています。

2. 農業経営の特徴

私の栽培圃場は、御坊市の海岸線に位置していることから、夏から秋の台風の季節には、その対策が必要となります。古いハウスを建て替えながら、平成 16 年には低コスト耐候性ハウスも導入し、カスミソウの安定生産を図っています。

○栽培品種と販売

最近、カスミソウは種苗メーカーから数多くの品種が発表され、その多様化が進んでいますが、生産の効率化を図るため、作付けする品種数を少なくしています。市場での評価の高い「アルタイル」や「ホワイトベール」の作付けを多くし、価格の安定に努

農業経営の概況

○作付品目と面積	
カスミソウ	70a
ブロッコリー	20a
水稻	70a
スイカ	20a
メロン	8a
シトウガラシ	6a
○労働力	
家族	4人
○出荷先	
農協出荷、市場出荷、個人売り等	

めています。

また、出荷は 10 月中旬から始まり、翌年の 5 月中旬までコンスタントに続きますが、その間は農協と連携しながら市場とこまめに連絡をとるようにし



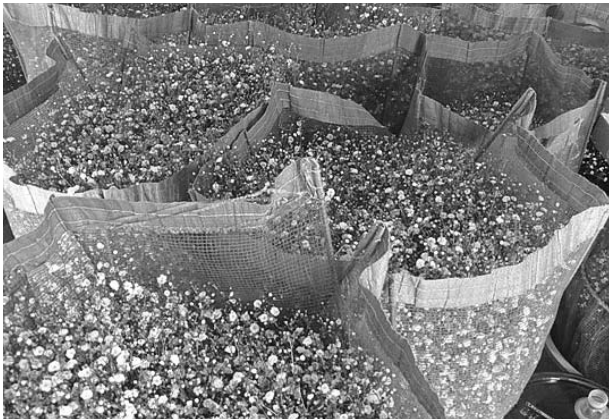
低コスト耐候性ハウスを利用した栽培

ています。そうすることで、常に全国の産地の状況を把握し、市場入荷量の多くなる時期等を考慮することで、高単価な取引ができるよう努めています。

○鮮度保持

カスミソウは日持ちの悪い花として知られていますが、高品質な切り花を常に市場に出荷できるよう、鮮度保持に力を入れています。具体的には、出荷前には、鮮度保持剤による前処理を行い、切り花の老化を抑制するとともに、つぼみの開花を促進するようにしています。また、出荷時には、「花だるま」と呼ばれる容器を用いて水につけた状態で出荷し、お店に届くまで花が萎れないように管理することで、いつも消費者の方に新鮮な花を届けられるよう工夫しています。

また、経営の効率化を図るため、パソコンを使っ



収穫されたカスミソウ



出荷用の「花だるま」

た簿記も行い、自分の経営を客観的に把握できるようにし、経費の削減に努めています。

3. 今後の経営方針

現在は、秋から冬にかけてはカスミソウを中心にブロッコリー、春から夏には水稻、メロン、小玉スイカ、シシトウガラシ等を栽培し、年間を通して、仕事に切れ目のないよう仕事を行っています。しかし、両親も高齢であるため、妻との2人では現在の経営を続けることは難しく、今後は他の品目への転換も考えていく必要があると感じています。市場等の情報収集にも力を入れ、有望な新しい品目を探していきたいと考えています。

4. おわりに

最近では、異常気象による夏場の高温、長雨や集中豪雨、台風もあり、年々栽培が難しくなってきたと感じています。低コスト耐候性ハウスを上手に活用しながら、台風等の気象条件に左右されず、高品質な品物を安定的に市場に送っていきたくと考えています。

また、他の農業士のみなさんや地域の人達、農協の職員等と意見交換を行いながら、この地域にあった農産物を見つけ、地域の農業の発展に努めたいと思います。



カスミソウの作業風景

私の農業

農業は、人との出会いとつながり ～ 地域活動で得たもの ～

田辺市 指導農業士

田 中 一 正



1. はじめに

私の農業経営は、ウメを中心にカンキツとの複合経営を行っています。

高校を卒業して8年間は農協に勤めながら農業をやっていましたが、長男でもあったことから退職し専業農家となりました。

昭和55～57年に中芳養地区の17戸でミニパイロットを成功させ、少しずつ耕作面積を拡大しました。

農協の理事を、昭和59年から5期と平成19年から2期で、計7期(21年)を務めました。

平成19～20年度に西牟婁地方農業士会連絡協議会会長並びに和歌山県農業士会連絡協議会事務局長を務めました。

平成20年に県農林水産業賞(農業部門)を、平成26年に県知事賞(産業振興・農林水産部門)を受賞しました。

2. 農業経営の特徴

昭和40～50年代は(普通)温州ミカンの時代でしたが、その後かげりが見え始め、極早生温州ミカンやウメへ転換したので収益も右肩上がりとなりました。

当時は、今以上に農業におもしろさを感じながら取り組み、開墾にも力が入りました。

また、温州ミカンについては、ウメブームの時代

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ウメ	150 a
カンキツ	85 a
うち 極早生温州	25 a
普通温州	40 a
中晩柑	20 a
計	235 a (うち借地 40 a)
○労働力	
家族	4人
臨時雇用(ウメ)	2人



思い入れのあるミカン園

に入ってから捨てられませんでした。

現在、温州ミカンについては、マルチ栽培を導入し高品質生産に取り組むとともに、宮本早生からゆら早生への改植、日南1号や上野早生の増殖、宮川

早生の増植を、ウメについては老木の改植に取り組んでいます。

また、近隣で遊休農地も増えてきたことから、その農地を借り入れて管理しています。

3. 今後の経営方針

梅干しの単価が低迷しており、もう少し有利な単価で安定してくれば全体の農業経営が落ち着くのですが、現状では非常に厳しい状況です。

そういった状況の中で、ウメについては高品質・安定生産に努め、温州ミカンについては老木園の若返りに早急に取り組みたいと考えています。

また、経営の安定のため息子が主となり、直売所出荷用に少量多品目で中晩柑の導入に取り組み始めたところです。

今まで（私の時代）は生産物をJA共販で出荷してきましたが、今後はいかに販路を確保していくかを考えていくことが大切だと思っています。



息子と

4. おわりに

私は、今年度末に指導農業士を定年で解除となります。農業士としての活動は、農業人生の中では短い期間でしたが、その間には多くの方々とお会いすることができました。そして、その方々とつながっていくことで、色々な勉強や経験をさせていただくこと

ができました。独身の農業後継者にパートナーを紹介するアグリパートナーサポート事業の相談員もその中の一つです。

どこの地域、地区でも農業後継者が不足している中で、今後も遊休農地や耕作放棄地が増えてくると思われます。「どう農地を守っていくのか」という難しい問題に、これからも地域の担い手の人達と共に考え、農地を守っていきたいと思います。

ありがとうございました。



現在、アグリパートナーサポート事業で相談員を務めています

— MEMO —

「アグリパートナーサポート事業」

とは

田辺市アグリパートナー地域推進協議会（事務局 田辺市農業振興課内）が、面談により選ばれた地元の農家男性と都市部在住の女性の出会いの機会を設け、結婚まで結びつけることを目的とする事業。

平成19年にはじまり、これまで7組が成婚しています。

詳しくは下記のホームページへ

<http://www.city.tanabe.lg.jp/nougyou/aguri.html>

農業に懸ける想い

「見せる」「伝える」農産物 ～ 消費者によるこびを～

海南市 和海地方4Hクラブ連絡協議会

秦 野 英 和



1. はじめに

私は大学卒業後、就職したのち平成24年4月に就農し、海南市高津地域で桃と梨を栽培しています。

高津地域は古くから桃の産地で、「高津の桃」として消費者から高い評価を得ていますが、近年は農業従事者の高齢化が進み、後継者不足の状況です。

就農してから近隣に同年代の人がなく、少しさみしい時期もありましたが、普及指導員からの勧めで和海地方4Hクラブに加入し、同年代の農業後継者と楽しく活動しています。

2. 農業への想い・取り組み

4Hクラブは販売促進やPR活動をクラブ活動のテーマとして取り組んでおり、軽トラ市やマルシェへの出店を行っています。その活動の中で、私も直売活動で販売する野菜を少し栽培しています。

これらの活動に参加していると親子連れのお客様と接する機会があり、子供が新鮮な農作物にふれ非常に楽しそうな笑顔を見ると「自分が生産する農産物で地域の物語を伝えられないか？」という考えになりました。今後は食育の資格を取得し、地域での農作物のPRや、食育活動につなげていきたいと考えています。

今年の2月10日に和歌山県青年農業者会議で和海地方代表としてプロジェクト発表で、私は上述のような4Hクラブの活動と私の取り組みを発表し、

農業経営の概況

○作付品目と面積	
桃	100a
梨	10a
野菜（主に直売所に出荷）	5a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	2～3人

入賞できました。今度、東京で開催される全国大会へも参加します。新たな出会いを期待し、今後の農業経営に役立つ情報を得たいと思っています。



食育の取組



プロジェクト発表

農業に懸ける想い

果樹農家から複合経営へ

紀の川市 農業研修生

羽 竹 隆 祐



1. はじめに

私は、和歌山県農業大学校を卒業後、在学中に研修生としてお世話になった紀の川市の小川農園に就職し、農業技術の習得に励んでいます。

実家は田辺市で梅とスモモを栽培していますが、梅干の価格低迷により経営が不安定となっていて、梅栽培と時期が重ならない野菜を新たに取り入れたいと考え、現在、野菜の栽培技術やトラクター等の機械の操作方法を中心に勉強中です。

2. 農業への想い・取り組み

平成27年4月に小川農園を卒業し、実家で農業経営をスタートする予定です。初年度は玉ねぎ20aと葉ボタン10aに取り組み、次年度は玉ねぎの面積を60aに（将来100a）に拡大するとともに、新たに軟弱野菜の栽培も取り入れたいです。

なぜかと言うと、実家の周辺では平地は貴重であるにもかかわらず、秋に稲を収穫した後は翌年の5月頃まで何も作付けされていない水田がたくさんあるからです。それらの農地をまとめて借りて、裏作に玉ねぎや軟弱野菜を作付けすることで、農地の有効利用を図りたいと思います。

高齢化により農業を続けるのが困難な人がこれから先さらに増え、耕作放棄地の増加が懸念されていますが、それを防ぐために積極的に水田を借り、野菜を栽培することで地域農業を守り、その中で収益

農業経営の概況

○作付品目と面積	
玉ねぎ	100a
軟弱野菜	50a
葉ボタン	10a
梅	180a
スモモ	20a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	4人

を上げていきたいと思っています。

◎経営の目標は、研修先の小川氏が提唱する

- ①農業従事者一人当たり500万円の売上
- ②農家で2,000万円以上の売り上げ
- ③サラリーマン以上の所得

を早く達成できるよう、創意工夫をこらした果樹と野菜の複合経営に取り組み、地域農業を牽引する農家になれるよう頑張ります。



玉ねぎの植え付け

農業に懸ける想い

柿の高品質栽培を目指して

橋本市 青年農業士

新田 芳久



1. はじめに

私は、和歌山県農業大学校を卒業後、JA に3年6ヶ月勤めましたが、父親の病気もあって平成19年途中から就農8年目です。

農業大学校では花を専攻したので、農業の周年作業に慣れるのに、しばらくかかりました。

2. 農業への想い・取り組み

就農した頃からイノシシとシカが非常に増え、年々農作物や田畑への被害が増えています。

そこで、地域で電気柵を導入しました。それでも被害が軽減されないところはワイヤメッシュ、シカ対策にネットで園地を囲ったので、畑や果樹が荒らされる心労が少なくなりました。

また、作業の安全性を上げるためモノラックを取りつけました。

橋本市の主要果樹の柿は、10月になると価格が極端に下がるので、9月中に出来るだけ収穫出来るよう臨時雇用を導入し、極早生・紀北川上早生の栽培に取り組んでいます。

祖父の代に植栽した富有柿の老木化が進んでいるので、徐々に改植を行って木の若返りを図るとともに、牛糞堆肥で土作りに取り組みたいと考えています。

祖父から父の代に引きつがれた、柿、梅、栗、山椒など維持しながら、やはり主体は柿栽培で頑張りたいです。

平成26年度から地元JAの青年部に加入し、橋本

農業経営の概況

○作付品目と面積	
刀根早生	50a
平核無柿	20a
富有柿	10a
水稻	35a
葉ぼたん	5a
梅、栗、山椒	10a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	2人

市の先輩農家の話を聞ける機会も増えました。また、家族も増えたので、体に無理がないように省力化に努め安定収入が得られるようにしたいと思います。



刀根早生のほ場



葉ぼたん畑にて

農業に懸ける思い

高品質果実生産で高収益を！！

有田川町 青年農業士

尾崎 行雄



1. はじめに

私は高校卒業後、平成13年に就農しました。

我が家は、私の就農当初から温州みかん中心の経営でしたが、面積は230a程度でした。その後、土地を借りて規模拡大を図りながら、収量が少なく早生より食味が劣る晩生を減らし、極早生と早生の栽培面積を増やしてきました。

キウイは、栽培を始めて30年が経ち、最近はいよいよ病の問題もあって、少しずつ面積を減らしています。

2. 農業への思い・取り組み

我が家の園地のほとんどは、みかん栽培に適した南受けの山畑です。そのため、マルチ等で品質の底上げをしなければならない園地は、ごく一部です。

一方、薬剤散布やかん水作業は、ほとんどの園地で手散布なので、徐々に多目的スプリンクラーを導入し省力化を図っています。

出荷は、すべて地元JA共選です。共選では、みかん果実の等級が上から「味一」、「特選」、「レギュラー」とあり、等級が上がれば手取りもアップします。

この等級分類の指標となる果実糖酸のデータについては、8月からJA選果場と共選青年部で分析を行っています。もちろん、自分でも樹ごとに糖度と食味をチェックし、「味一」、「特選」を増やす努力をしています。我が家の極早生、早生出荷量に占める「味一」、「特選」の割合は、かなり高い方ではないかと思っています。

現在は、多目的スプリンクラーの導入と、品質の

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	380a
(極早生 100a、早生 180a、 中生 100a)	
キウイフルーツ	30a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	3人

低い品種や老木の更新に力を注いでいます。品種更新では、中生で浮皮が少ないとされる「きゅうき」の導入を考えています。

今後も温州みかん中心の経営にこだわり、スプリンクラー導入や老木等の改植更新により作業効率を高めていきたいです。



南受けの温州みかん園



多目的スプリンクラー施設

農業に懸ける想い

今が踏んばり時

みなべ町 青年農業士

中本朋章



1. はじめに

私は、就農して14年目を迎えました。就農前は、地元のガソリンスタンドに勤めており、今でもお世話になり、仲良くさせてもらっています。以前は、花・柑橘・米なども栽培していましたが、父が梅一本に変更し、そのまま受け継いでいます。

就農後、同世代の後継者との意見交換や親睦を図ろうと思い、先輩の勧めでJA青年部に加入し、アドバイスを受れたり、PR活動などをしてきました。今、梅は価格低迷で正直しんどいです。ですが、今が踏んばり時だと思って家族で協力して頑張っています。

2. 農業への想い・取り組み

私が力を入れている作業の一つが剪定です。今、しんどい時だからこそ、数量にはこだわらず、秀品率を上げようと思い、不用枝を落とし結果枝も間引くことを意識して取り組んでいます。このため、果実のスレ傷が減り、果実も多くなり過ぎないため、生理落果も少ないように思います。

弟は、農繁期には会社が休みの日に手伝ってくれますが、「しんどいわ」、「仕事しづらいわ」などと意見を言ってくれるんです。これは、家族だから言いたいことを言えるんだと思います。もし臨時雇用していれば、こんな思いで仕事をしているんだろうと考え、弟の意見を活かし、下枝を切り、適度に樹高を上げることで、収穫作業も効率よくなりました。あくまで父がある程度、成木まで育てた園地で、私

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	450a (内 200a は育成中)
○労働力	家族 3人

が切ったり、伸ばしたりしているので、全てが正解かどうかわかりませんが……。

今後は、作業効率や立地条件の悪い園地は山に戻して面積を減らし、数年前に植えたパイロット園地などに集約していこうと思っています。

私が生まれたみなべ町は、南高梅が生まれた地、日本一の梅の産地として、新しい意見を取り入れながら色々とチャレンジしていきたいと思っています。



剪定作業にこだわっています



育成中のパイロット園地

農業に懸ける想い

「省力化」を目指して

田辺市 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会

竹中 勇貴



1. はじめに

私は高校を卒業し、就農してから8年になります。

我が家では、宮川早生を中心としたカンキツ、スモモ、水稻を栽培しています。

現在、早生温州ミカンには老木が多くなっているため、少しずつ改植を実施するとともに、極早生温州ミカンの日南1号や上野早生はマルチ栽培を行いJAの『指定園』や『こだわり』で出荷できるようにがんばっています。

また、ウメ（古城）を新たに定植し、スモモは補植を行っています。

2. 農業への想い・取り組み

現在は一人で作業する機会が増えているので、少しでも省力化できるように工夫しています。

早生温州ミカンは、摘果に時間がかからないように、樹の半分だけ摘果剤を散布して、ほとんど手作業による摘果をすることなく連年結果させています。ただ、着果量が安定しなかったり、摘果した枝に全く花が咲かなかったりと、まだまだ課題が多いです。

また、マルチを被覆するのに、各マルチにスプレーで番号を書き込んで、（次の年の）敷き間違いによる時間ロスをなくすようにしています。

最近では、早生温州ミカンの収穫期間が長く感じるため、当地域では袋がけの必要のない「津之輝」を労力分散のために少しですが導入しました。

これからの農業は、今までと同じことをしていてもダメだと感じる人が多いので、失敗を恐れずに、

農業経営の概況

○作付品目と面積	
極早生温州ミカン	35a
早生温州ミカン	70a
ポンカン	10a
スモモ	20a
ウメ（古城）	6a
水稻	20a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用等	3人

新しい栽培技術や色々な品種の導入にどんどん挑戦していきたいと思います。



今（原稿執筆時期）は、ポンカンを収穫中



園地は、運搬機が通れるように整備しています

県農業大学校生です。

～1年生の自己紹介 第2回～

私は出身地は紀美野町です。
趣味はプラモデル作りです。
農大では野菜コースを専攻しており、主にトマト栽培を行っています。
卒業後の進路は、就職した後に実家の農業を継ぎたいと考えています。
一日一日、必死のパッチで学び、農大の2年間頑張ります。



坪 井 雅 弘



手 平 康 介

私は県立橋本高校出身で、部活動はダンス部に所属していました。
農業大学校に進学した理由は、農業に興味ややりがいを感じたからです。

幼い頃から実家の桃栽培をずっと手伝ってきました。その中で、作業のつらさや販売する際の喜びなど経験しました。

また、消費者から「手平さんの桃を毎年買ってます」「手平さんの桃は美味しい」などの言葉を頂き、とても達成感を得ることができた職業だと思いました。

この学校で農業の基礎をしっかりと学び、将来に役立つよう真剣に取り組んでまいります。

出身地は海南市下津町で、出身校は県立箕島高等学校です。
趣味は読書です。
僕が農業大学校に入学した理由は、幼い頃から親がみかん栽培をしている姿を見て、自分もいろんな農産物を栽培してみたいと思ったからです。
将来の夢は、自分の農地を持ってみかん栽培を行いたいです。



中 山 大 地

私は由良町出身で家は農業をやっています。

趣味は釣りと絵描きです。

農業大学校に在学している私ですが、はじめ考えていた進路に農業を学ぶという道はありませんでした。むしろ避けようとしていました。その頃の私に目標はなく、様々な専門学校について調べていました。そんなとき、農業のことが頭をよぎるようになり、次第に興味へと変わっていきました。

そのように自分の周りには興味を引くことがたくさんあると思うので、もっと身近なものに目を向けて色々な事に頑張っていきたいです。



西平 充幸



東 香々美

私は、高校の実習助手を目指し入学しました。農大の1年生は男子20名、女子4名で女子が少ないですが、友達がたくさんできて毎日が楽しいです。

私は農芸高校出身なので果樹、野菜、花について少し勉強していましたが、植物バイオが最も得意です。これからも勉強頑張ります。



私の家は専業農家で、みかんを栽培しています。農大では、家で作っていない野菜について学びたいと思い、野菜コースを専攻しました。

卒業後は、学校で学んだ知識や技術を活かし、野菜栽培に挑戦したいと考えています。



平林 拓真



古田 崇人

僕は有田川町の出身です。趣味は小学校の頃から続けている剣道です。剣道は一本を取ったときや試合に勝ったときに達成感を感じられるのでとても楽しいです。

農業大学校に入学した理由は、父が農業をしていることもあり幼い頃から農業に興味があったからで、果樹コースで学んでいます。

卒業後は農業法人に就職し、最終的には家の農業を継ぎたいと考えています。将来のためにも、知識や技術を習得し、頑張っていきたいです。

私が農業大学校に入学した理由は、農業に興味があり学びたいと思ったからです。

特にオープンキャンパスの時に収穫して試食したピーマンがとても美味しく、今まで嫌いだったピーマンが美味しく食べられることに感動しました。

農大では、テニス部に所属し、勉強とスポーツを両立した生活を送っています。

将来は農業関係の企業に就職したいです。



堀川 稔

.....



前山 尚輝

この学校に入学した動機は、両親が農業をする姿を見て育った自分が、後継者となることで少しでも親を楽にさせてあげたいと考えたからです。

家を継ぐことが小学校の頃からの夢でもあり、将来的には自分が中心となり家の仕事が回るように、この学校で知識や技術を学びたいです。

.....

私は串本古座高校出身で、高校時代は自然科学部に所属していました。部活は簡単な実験やフィールドワークとして野鳥の観察を行っていました。

農業大学校に進学した動機は農業にとっても興味があり入学を決意しました。

私の家は非農家ですが、近くでは米や柚が栽培されており、手伝いを行ったことがとても印象に残っています。

将来は農大で学んだ知識や技術を活かすことが出来る職業に就きたいと考えています。



松木 朝彦

試験研究レポート

REPORT

イノブタ肉の「おいしさ」アップ ～筋肉内脂肪を増やす技術～

和歌山県畜産試験場 生産環境部 主任研究員 前田 恵助

1. はじめに

牛肉や豚肉はある程度、赤身に脂肪が入った「霜降り」の状態になると、「やわらかさ」や「ジューシーさ」が増し、嗜好性が向上することが知られています。このように赤身（筋肉）に入った脂肪を「筋肉内脂肪」と呼びます。一般的に、イノシシなどは筋肉内脂肪が少ないことが知られていますが、イノブタでは飼料の影響によって筋肉内脂肪が増えるかどうか明らかではありません。そこで、本県のイノブタ（写真1）の筋肉内脂肪を低コストで増やすことを目的とし、飼料としてパン屑などの食品副産物を用いた研究を行いました。

2. 研究の内容と結果

イノブタ 10 頭を 2 群に分け、一方にはトウモロコシを主とした市販の肥育用配合飼料を給与し、対照区としました。他方にはアミノ酸の含量を操作するためパン屑などを主としたアミノ酸のうちリジンが少ない低リジン飼料を給与し、低リジン区としました（表1）。その結果、ロース芯部分に当たる筋肉である胸最長筋の筋肉内脂肪含量は対照区に比べ低リジン区で 1.6 倍に増加しました（図1）。しかし、増体量は対照区より低リジン区が劣り、出荷適期が 44 日間延びました。



写真1 出荷間近のイノブタ（約110kg）

3. まとめ

表1 対照飼料と試験飼料の栄養成分

分析値, %	対照区 低リジン区	
	対照区	低リジン区
水分	12.35	10.84
粗タンパク質	15.07	15.77
粗脂肪	3.79	2.36
粗灰分	4.28	4.61
粗繊維	4.99	3.19
リジン	0.60	0.42

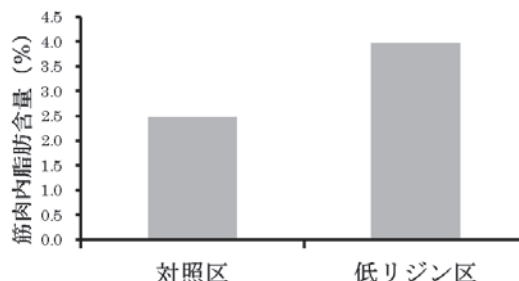


図1 胸最長筋の筋肉内脂肪の含量

今回の結果から、アミノ酸の含量を操作することにより、イノブタでも筋肉内脂肪を増やすことが可能であることが明らかになりました。現在、課題となった発育性を改善し、筋肉内脂肪を増やす方法について継続して研究を行っています。

試験研究レポート

REPORT

スターチスの新電照栽培技術の開発

和歌山県農業試験場暖地園芸センター 園芸部 主任研究員 伊藤吉成

1. はじめに

スターチス栽培において、比較的高単価が望める年内から3月下旬までの切り花本数を増やすことが、経営安定のためのひとつの方策です。

暖地園芸センターでは、様々な波長の光による長日処理がスターチスの生長や切り花品質に与える影響を調査したところ、光の波長によって切り花本数や品質が変わることを発見し、これに基づいた新しい電照栽培による切り花の増収技術の開発に取り組んでいます。

ここでは、市販の電球型光源の中から増収効果の高い光源を選定し、その光源を使った電照開始時期と終了時期について検討した結果を紹介します。

2. 試験研究の内容・結果等

(1) 電照栽培に適する市販光源の選定

市販の光源7種、電球型蛍光灯（電球色、昼白色、昼光色）、白色LED電球（電球色、昼白色、昼光色）、白熱電球を用いて平成24年10月29日から24時間日長となるよう終夜照明を行い、切り花本数、切り花長、切り花重を調査しました。冬期の最低夜温は5℃とし、電照は平成25年3月18日まで継続しました。

その結果、使用したすべての光源で無処理に比べて切り花本数が増加しました。試験したLED電球の3種類は、光源色（人の目に見える光源の光の色調）にかかわらず白熱球や蛍光灯と同等以上の切り花本数となり、無処理と比べて75%以上の高い増収効果が認められました（図1）。

(2) 電照の開始時期の検討

昼白色LED電球（Panasonic LDA6N-H）を用い、電照の開始時期を平成25年10月1日（定植18日後）

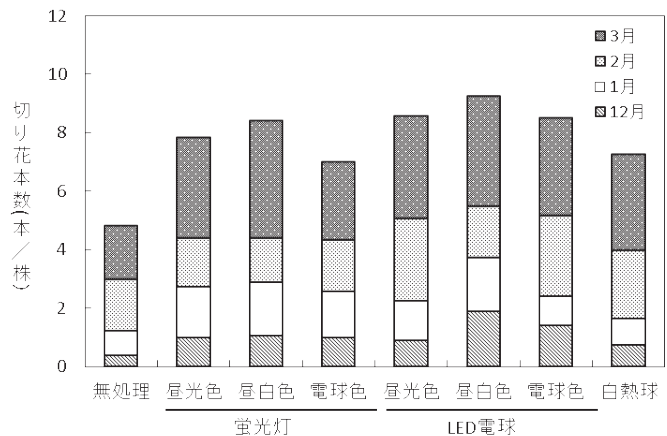


図1 光源の種類と切り花本数
品種：サンデーバイオレット
平成24年12月14日～25年3月18日までの本数

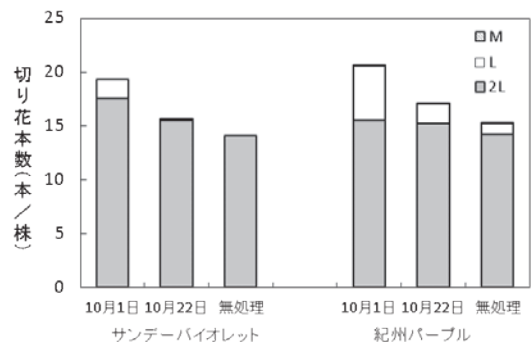


図2 電照開始時期と切り花本数
平成25年11月8日～平成26年4月2日までの切り花本数

と10月22日（定植39日後）として切り花本数、切り花長、切り花重を無処理と比較しました。冬季の温度管理と電照方法は、試験（1）と同様とし、平成26年3月21日まで電照を行いました。

表1 電照開始時期と切り花長および切り花重

品 種	電照開始日	切り花長 (cm)	切り花重 (g)
サンデーバイオレット	10月1日	84.4 ± 5.4 b ^z	38.8 ± 11.6 b
	10月22日	92.0 ± 7.4 a	49.0 ± 13.3 a
	無処理	94.4 ± 10.0 a	53.9 ± 15.7 a
紀州パープル	10月1日	70.3 ± 5.5 c	31.0 ± 9.6 c
	10月22日	75.4 ± 7.6 b	37.6 ± 13.9 b
	無処理	81.1 ± 12.1 a	51.0 ± 17.6 a

z：異なるアルファベット間にTukeyの検定により5%レベルで有意差あり

無処理に対する切り花

本数の増加率は、両品種とも10月1日開始で約35%、10月22日開始で約11%となり、電照開始時期が早いほど増収効果が高まる傾向が認められました（図2）。

一方、切り花品質は電照開始時期が早いほど低下する傾向が認められました（表1）。

(3) 電照の終了時期の検討

平成25年10月1日に電照を開始し、電照の終了時期を11月26日、1月26日および3月21日として切り花本数と切り花長、切り花重に及ぼす影響を調査しました。その他の試験方法は試験（2）と同様としました。

サンデーバイオレットの切り花本数は、電照の終了時期が遅いほど増加する傾向がみられ、11月26日終了に比べて3月21日終了では約32%多くなりました。紀州パープルの切り花本数は、11月26日終了と1月26日終了が同等で3月21日終了がそれより約21%多くなりました（図3）。切り花長および切り花重は、両品種とも電照終了時期による差は認められませんでした（データ省略）。

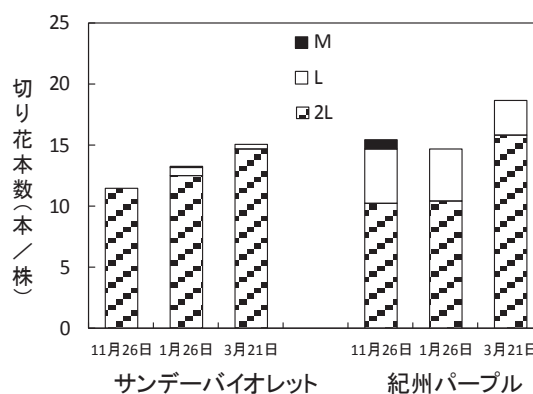


図3 電照終了時期と切り花本数
平成25年11月8日～平成26年4月2日までの切り花本数

3. まとめ

スターチス栽培の促成栽培では、市販の光源で電照による長日処理を行うことによって切り花本数を増加させることがわかり、LED電球で特に高い増収効果が得られました。

また、電照の期間は10月上旬から3月下旬までとすることでより増収効果が高まりましたが、切り花長が短くなるなど品質が低下する弊害が認められました。

現在、定植時期（8月下旬と9月上旬）に応じた電照開始時期の検討を行うとともに、電照による増収効果の品種間差および1日の電照時間や時間帯と収量・品質の関係等について調査を継続中です。今後は、今年度の試験結果を踏まえて、実用化のためのマニュアルづくりを行う予定です。

試験研究レポート

REPORT

浮皮が少ない和歌山県オリジナル品種 ‘きゅうき’ の紹介

和歌山県果樹試験場 栽培部 副主査研究員 水上 徹

1. はじめに

近年では、秋季に温暖多雨になることが多く、ウンシュウミカンの着色遅延の発生や浮皮が増加する等の影響がみられています。特に、‘向山温州’をはじめとするウンシュウミカンの中晩生品種では、果皮と果肉が分離する浮皮の発生が問題となり、それにより腐敗や食味低下が生じやすくなります。浮皮については、栽培技術によりある程度対応が可能なものの完全に防止することは難しいため、浮皮の発生が少ない品種が求められてきました。

このような背景を踏まえ、和歌山県では、平成16年から浮皮が少ない等の優良な特性を持つ変異系統を探し出す「枝変わり探索」を実施しています。その中で浮皮が安定して少ない‘向山温州’の1樹変異個体と考えられる1系統を選抜しました(図1)。

本系統は、平成26年2月27日に‘きゅうき’として品種登録されましたので、今回その特性について紹介します。

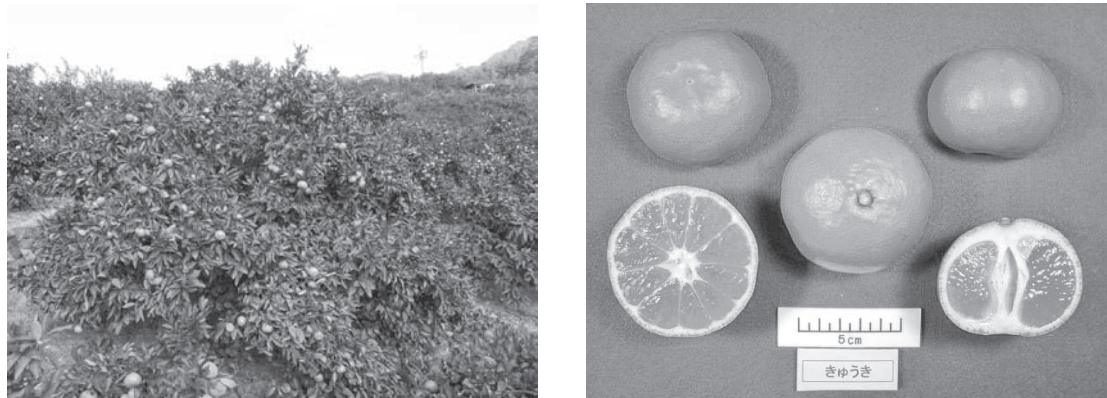


図1 ‘きゅうき’の原木樹(左)と果実形態(右)

2. 試験研究の内容と結果

(1) 樹体特性

‘きゅうき’の育成地(有田市宮原町内)における‘向山温州’との比較では、節間が短く、葉が小さいのが特徴です(表1)。樹勢は中ですが、幼木期間での樹冠拡大が遅い傾向があります。また、強勢な枝の発生は比較的少なく早生品種に似た樹姿をしていることも特徴です。

表1 ‘きゅうき’(原木)の枝梢および葉の形質

	新梢の長さ (cm)	節間 (cm)	葉身の大きさ (cm ²)
きゅうき	(短) 11.2	(中) 1.8	(小) 26.2
向山温州	(中) 14.8	(長) 2.1	(小) 27.2

※2010年特性調査データより

※調査に使用した枝葉は、共に育成地より採取

(2) 結実特性

生理落果は‘向山温州’より少なく（図2）、着果は比較的安定している反面、スソやフトコロ果も結実しやすく、そのまま群状に着果することが多いです（図3）。

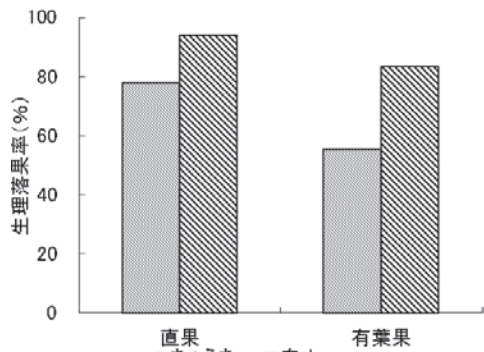


図2 育成地における‘きゅうぎ’の生理落果率 (H25)



図3 生理落果後の着果状態

(3) 果実特性

果実の外観は、‘向山温州’と比べやや腰高です。

果実品質について、浮皮の発生程度は‘向山温州’と比べ小さい傾向があります（表2、図4）。完全着色期は12月上旬で、糖度は‘向山温州’とほぼ同程度ですが、クエン酸含有率は‘向山温州’よりやや低い傾向があります（表2）。また、可食部の袋に相当するじょうのう膜は‘向山温州’より薄く（データ略）、食味は‘宮川早生’等の早生品種に近いです。

表2 ‘きゅうぎ’の果実品質特性（平成25年12月上旬調査）

園地名	横径 (mm)	果形指数	果実重 (g)	果肉割合 (%)	糖度 Brix	クエン酸含有率 (%)	着色歩合 (0-10)	浮皮程度 (0-3)	
原木 宮原	きゅうぎ	63.3	124	110.1	80.4	13.4	0.78	10.0	0.0
	向山	65.6	138	104.3	75.7	13.0	0.91	10.0	0.5
初島	きゅうぎ	63.5	116	116.7	79.1	11.3	0.55	9.7	0.0
	向山	66.3	124	123.5	61.9	11.4	0.94	10.0	0.2
山田	きゅうぎ	69.7	120	147.5	80.4	10.1	0.78	10.0	0.0
	向山	66.5	128	127.3	79.4	10.6	1.00	10.0	0.2
高接ぎ 現地	きゅうぎ	63.4	122	109.5	78.6	11.5	0.73	10.0	0.0
	向山	67.7	137	118.6	75.8	11.4	0.72	10.0	0.0
吉見	きゅうぎ	67.3	113.4	138.8	77.7	9.7	0.8	9.7	0.2
	向山	67.5	124.5	126.1	76.0	10.4	1.0	10.0	1.0
吉原	きゅうぎ	69.1	126	136.1	76.7	11.0	0.62	10.0	0.2
	向山	69.7	133	131.9	76.8	10.5	0.75	10.0	0.0

※「山田」、「吉原」は初結実

※浮皮程度は、無(0)、軽(1)、中(2)、甚(3)とした



図4 ‘きゅうぎ’（左）および‘向山温州’（右）の浮皮程度

3. まとめ

‘きゅうぎ’は、幼木期の生長がやや緩慢なため樹冠拡大が遅く、枝葉は短小という樹体特性はありますが、本県の主力中生品種‘向山温州’と比べて浮皮の程度が小さいです。また、結実性がよく生産性は安定しており、減酸は早く、じょうのう膜が薄く、早生品種のような良好な食味であることも特徴です。

有田管内の複数園地にて高接ぎによる栽培試験を行っており、栽培適地については調査中ですが、‘きゅうぎ’の育成地は、標高が高め（約220m）で、やや保水性のある日照条件の良い有田川北岸の南面斜面であることから、当面は育成地に近い条件の園地から導入を行うことが望ましいと思われます。

農業士会支部活動レポート

REPORT

平成 26 年度和海地方農業士会活動ダイジェスト

和海地方農業士会事務局

1. 総会及び講演研修会を開催

和海地方農業士会は、平成 26 年 4 月 11 日に紀三井寺ガーデンホテル はやしにおいて平成 26 年度総会及び、研修会を開催した。

総会は会員 55 名の出席のもと、平成 25 年度活動経過及び 26 年度活動計画とそれに伴う決算、予算が議案書のとおり承認された。

総会終了後には、地域農業振興や経営の改善に資するために「平成 26 年度からの新たな農業施策について」と題し、和歌山県農林水産総務課 鈴木 政策企画班長から講演が行われた。

鈴木氏からは、攻めの農林水産産業推進本部（農林水産省）による農林水産業・地域の活力創造プランの概要に続き長期総合計画実現に向けた各種施策について説明がなされた。参加者は施設園芸の省エネ対策や鳥獣害対策に関心が高かった。



平成 26 年度総会



鈴木氏の講演

2. 女性部会がうめ研究所、秋津野ガルテンを視察研修

和海地方農業士会女性部会は、平成 26 年 9 月 3 日、女性農業士 8 名参加のもと果樹試験場うめ研究所、秋津野ガルテンへ視察研修を行った。

うめ研究所では栽培技術や機能性に関する研究内容等について土田主査研究員から説明を受けた。参加者から「春季の摘心処理」に関する研究に多く質問が出され、今後、我が家でもこの管理法を導入したいとの意見が出されていた。

秋津野ガルテンでは㈱秋津野の玉井副社長から「秋津野」未来への挑戦」と題して講演を受けた。講演では、平成の初めころから上秋津地区では人口増により新旧住民とのトラブルがはじまり、そうした状況の中、

地域農業振興を考える組織として「秋津野塾」を結成。その後、地域振興の4本柱を①食農教育、②貸農園、③農家レストラン、④オーナー園、とし、これらを実践するため㈱秋津野を設立した。今後はさらにコミュニティづくりや国、県、市、大学などとも連携を図りながら地域づくりを進めるとのこと。参加者は広い視野を持ち地域づくりを実践されていることに感銘を受けていた。



「きてら」で記念撮影



うめ研究所にて

3. 農作業の軽労化に向けたアシストシステム研修会開催

平成27年2月25日にJAながみね しもつ宮農生活センターで、アシストシステムに関する研修会を下津町農業研究会青年同志会と共催で開催した。内容は「和歌山大学のパワーアシストスーツについて」と「アシストスーツ「ラクベスト」について」で、講演、実演が行われ、会員、関係者合わせて参加者約100名が熱心に聴講、体験した。

「和歌山大学のパワーアシストスーツについて」は和歌山大学産学連携・研究支援センター 八木栄一 名誉教授から研究内容について講演があり、続いて同大学 佐藤元伸 特任助教の指導により実演、体験を行った。

「アシストスーツ「ラクベスト」について」は株式会社クボタ 関連商品営業部 佐藤洋志氏による説明、実演、体験を行った。

参加者の農作業の軽作業化への関心は非常に高く、熱心に説明を聞いた。パワースーツはコンテナを持ち上げる作業は楽になるが、今後さらに実用化に向けた改善が必要ではないか。ラクベストはブドウ栽培農家からジベレリン処理作業等に一度使ってみいたいなどの意見が出された。



パワーアシストスーツ



ラクベスト

農業士会支部活動レポート

REPORT

紀の川市農業士会活動について

那賀地方農業士協議会事務局

紀の川市農業士会打田支部の活動

【紀の川市農業士会 地域農業士 西川 武志】

1. はじめに

紀の川市は、比較的暖かく、雨量もそんなに多くもなく、いろいろな作物が作れる特徴のある地域です。昭和31年に池田村と田中村が合併して打田町となり、平成17年には5町が合併して紀の川市になりました。

また、直売で有名になった「めっけもん広場」ができたり、近畿大学生物理工学部（和歌山キャンパス）が開学しています。合併前は、打田町農業士会以外にも、打田町青年農業経営者協議会や打田町4Hクラブがあり、活動は後者2団体を中心となっていた行っていましたが、合併後は、紀の川市農業士会のみでの活動となりましたので、全体の活動以外にも支部単位で何かできないかと試行錯誤の毎日をおくっています。



紀の川市農業士会総会での講演

2. 紀の川市農業士会での活動

紀の川市農業士会の活動は、本業の農業経営を向上させるために、会員数人のほ場を訪問し、栽培技術とともに農業経営について参加者全員で意見交換を行いました。先進地研修とは違い、身近な方の経営がとても役にたちました。

また、紀の川市産業まつりにも参加させてもらい、しし汁のふるまいや花きの販売をしています。

なお、和歌山県農業士会の県外研修の参加は、とても有意義です。先進地見学はもちろんですが、宿泊があるので情報交換会のあとも夜どうし語らえます。打田支部の問題の相談をした時も「農業士は専業農家で経営が継続しているのを見せればいい。」と教えてもらい、方向性、やるべきことに自信が持てるようになりました。



紀の川市産業まつりへの協力

3. 次代の担い手への支援

打田支部では、紀の川市立池田小学校5年生の「お米の授業」を一年を通して担当させてもらっています。「自分たちで作ったお米で餅つきしよう」と始めてから、ずっと全校生徒でやってきましたが、数年前から5年生だけを対象としています。

小学校の座学では、「大人になって農業をやりたいになったら相談においで」と担い手確保の言葉でしめるようにしています。このことが評価され、平成26年3月に池田小学校が県農業教育賞の優秀賞を受賞しました。

また、3年前から小学校の近くの市立なるき保育所の園児たちに脱穀、もみすりや精米を見せたいとの依頼があり実演に行っています。

地元のおっちゃんたち、新規就農者、行政の手助けがあって継続できています。

一方、新規就農者には、おせっかいなほど係わるようにしています。この若者達が離農するようなら自分の子ども達も跡を継がない、そんな気持ちです。

また、低農薬で米を作っている学校田には、マコモタケを試験的に栽培しています。筍のような食感で、おもしろい食材だなと感じています。



田植への指導



稲刈りの指導

4. おわりに

紀の川市農業士会打田支部では、メーリングリスト並びにケイタイでの連絡網のシステムを活用して打田支部の活動を活発にしていきたいと熱い想いを抱いています。

農業士会の皆様、お互いに地域農業の発展のために頑張りましょう！

農業士会支部活動レポート

REPORT

伊都地方農業士会の活動について

伊都地方農業士連絡協議会事務局

1. 総会・研修会の開催

4月21日、伊都地方農業士連絡協議会（海堀哲司 会長）総会が九度山町長職務代理者の下西総括参事やJA 紀北川上の下林組合長等を来賓に迎え、九度山町ふるさとセンター5階大ホールにおいて開催された。総会では、平成25年度活動経過及び26年度活動計画とそれに伴う決算、予算が原案のとおり承認された。

また、総会後の研修会では、元近畿大学生物理工学部教授の三谷隆彦氏から、「和歌山の特産果樹の利用について」と題して、果実の加工研究、機能性成分の解析と健康増進作用に関する研究について講演があり、出席した会員からは活発な質問があった。



海堀会長のあいさつ



三谷隆彦氏の講演

2. 女性部会の活動

8月19日伊都地方農業士連絡協議会女性部会では、中野BC株式会社、和歌山ノーキョー食品株式会社桃山工場で研修会を行った。

中野BCでは、酒造りを行う仕込み蔵、梅酒の漬け込み蔵、日本酒をじっくり熟成させる貯蔵庫等見学、商品の試飲を行った。

次に、和歌山ノーキョー食品株式会社桃山工場の工場長から、昭和49年11月にみかん搾汁工場



中野BC株式会社での研修

として操業開始、昭和 54 年 3 月につぶつぶみかんジュース、ビン詰ジュース製造施設等新設、平成 17 年 2 月にペットボトル無菌充填ライン新設等、飲料・容器の多様化に対応した新しい設備の導入により、清涼飲食メーカーの受託生産、県産みかんの搾汁を行っているとの話しであった。今後は、お客様にはリピーター



和歌山ノーキョー食品株式会社桃山工場での研修

になってもらう、容量を小さくして「中味に価値観」のある商品を生産していきたいと説明を受けました。その後、ペットボトル無菌充填ライン行程、金型種類（ペットボトル）等の工場見学を行った。

3. 県外研修の開催

平成 27 年 1 月 20 日、資質向上を図るため、農薬メーカーである住友化学「健康・農業関連事業研究所」と大手ビールメーカーであるキリンビアパーク神戸で視察研修を行った。

健康・農業関連事業研究所では、新規農薬の開発プロセス、温室内での薬剤評価試験、家庭用殺虫剤の開発研究のため、虫の飼育、効力評価等について担当研究員から説明を受けた。

出席者からは、栽培品目の病害虫防除について質疑がなされた。

キリンビアパーク神戸では、原料（大麦・ホップ・水）の説明、製造工程の見学を行った。



住友化学株式会社健康農業関連事業研究所での研修

農業士会支部活動レポート

REPORT

有田地方農業士協議会の活動について

有田地方農業士協議会事務局

有田地方農業士協議会では、生産技術の向上と農業経営の発展を目指し、講演会や現地研修会を開催しています。また、各市町の農業士会も様々な活動に取り組んでいます。

1. 4Hクラブとの合同現地研修会の開催

平成26年9月12日、有田地方農業士協議会では、有田地方4Hクラブ連絡協議会と合同で、農業生産や加工などの優良事例を学び、会員同士の交流を図ることを目的に、有田川町旧吉備地域において現地研修会を開催しました。当日は4事例について研修が行われ、約70名が参加しました。

1) 株式会社 Citrus (シトラス) の取り組み

農業後継者減少と耕作放棄地拡大の解決のため、平成24年4月に農業生産法人を立ち上げられた代表取締役佐々木茂明 ph.D. から、事業内容等の説明を受けました。

同社は現在、農地・作業受託管理と人材育成業に取り組まれているとのことでした。



取組を説明する佐々木氏

2) 河内晩柑 (かわちばんかん) 栽培園

河内晩柑は熊本県で発見されたブンタン類の一品種で、外観とさっぱりした食味から和製グレープフルーツと呼ばれています。

有田管内では、春先以降の果実が少ない時期に出荷販売できることから導入されています。



河内晩柑栽培園



シミュレーターを体験する参加者

3) シューティング・シミュレーター体験

県農業環境・鳥獣害対策室担当者の指導のもと、シミュレーターを使って狩猟を疑似体験しました。当日の体験者の中には、なかなかの腕前を披露する参加者も見受けられました。

今回の疑似体験を入り口に、狩猟に興味を持ち、第一種（猟銃）免許の新規取得者が増えることが期待されます。

4) CAS冷凍施設

社会福祉法人きびコスモス会の山崎貞子理事長から説明を受けました。

CASとは、株式会社アビーが開発した最先端の凍結技術で、組織や細胞を破壊せずに凍結することができ、解凍後も凍結前の新鮮な状態に戻ることができる技術です。

きびコスモス会では、この技術で生シラスや焼きナスを冷凍し、国内をはじめ海外へも輸出をしているとのことでした。



CAS冷凍施設の見学

この研修を通じて、地元で頑張っている優良事例を学ぶとともに、地域リーダーである農業士とこれから地域の担い手となっていく4Hクラブ員の交流を図ることができました。

2. 地域イベントを通じた地域振興への取組（有田川町農業士会）

有田川町農業士会では、技術研鑽や研修会活動の他、町内小学校でのみかん摘果、収穫などの農作業体験を通じた地産地消の推進、さらには地域イベントへの参加等を通じて地域振興に取り組んでいます。

今回は、毎年10月に開催される農商工が一体となった地域おこしイベント「どんどんまつり」への参加について紹介します。このイベントは、有田川町内の花の里河川公園で開催され、文化祭やマラソン大会、フリーマーケットなども同時開催されています。

第17回となる今年度も、農業士会では地元産のみかんや野菜等の販売を中心に、やきいもやわた菓子で賑わいを演出しました。



農産物販売の様子



大人気だったやきいもとわた菓子

農業士会支部活動レポート

REPORT

日高地方農業士協議会の活動について

日高地方農業士会事務局

1. 地域リーダー研修会の開催

日高地方農業士会（長岡 均 会長）は、会員相互の親睦と連携を強化するとともに、地域のリーダーとしての資質向上を図るため、平成 26 年 11 月 6 日に地域リーダー研修会を開催した。

本研修会は 2 年に一度開催している。今回は、神戸市西区の（株）キャルファーム神戸において研修し、代表取締役社長大西雅彦氏よりトマトの施設栽培や加工等の取り組みについて説明を受けた。

大西氏は、高卒後 8 年間のサラリーマン生活を経て平成 13 年就農し、現在の経営内容は、施設トマト（大玉 60%、残り中玉、ミニ 計 16 品種）30 a、露地野菜（玉ネギ、ピーナッツ、サトイモ等 20～30 種類）30 a。労働力は、本人、両親、スタッフ 2 名の計 5 名。

施設トマトは、ヤシ殻チップ隔離ベッドの養液土耕栽培で、収穫は 10 月中旬～6 月。細霧（微霧）冷房により日中の昇温防止を図っている。

販売形態は、スーパーマーケット（そごうのテナント）5 割、民間直売所 3 割、直販 2 割。加工品は、乾燥野菜（カボチャ、ニンジン等）、ジャム・ピューレ（トマト）で、自家製造だけでなく、他所の加工場への製造委託もしている。

ユニークな取り組みとして、婚活イベントを行っている。内容は、収穫・農作業体験、バーベキュー等で、男女 10 人对 10 人、1 回 6,800 円で 3 時間、年間のべ 800 人が利用。今後の方向としては、来年から農業体験ヘシフトする予定とのことであった。

本研修に参加した農業士会員は、それぞれ経営の基幹品目が野菜・花き・果樹と多岐にわたっているため、すぐに役立つ研修内容とは言えなかったが、今後の農業振興を考える上でのヒントになったのではないかと考えられた。



露地圃場で大西社長より説明を受ける



トマトハウス内で研修中

2. 現地研修会の開催（女性部会）

7月29日、日高地方農業士会女性部会（堀井 博代 会長）が県内の6次産業化、観光農業で地域農業の活性化に取り組む事例を調査するため、田辺市龍神村と伊都郡かつらぎ町で現地研修会を実施し、関係者を含め18人が出席した。

まず、田辺市龍神村で「龍神は〜と」の原さだ代表から、発足当時から現在に至るまでについて説明を受けた。「村の宝物を見つけ、多くの人々に本物の味を伝えたい」との思いから村のI・Uターンの女性6人で発足後、龍神村産の食材にこだわり、産物市を始めたり、村内外のイベントにも積極的に参加してきた。商品の製造や様々なイベントにも対応できるような体制をつくり、若い子育て世代の会員も商品の製造に関わっている。

また、県外の大手百貨店や都会の飲食店でも商品を扱ってもらえるようになり、現在メンバーも20代～80代の約30人に増え、活動を展開している。

その後、高野山経由でかつらぎ町に移動し、観光農業に取り組んでいる河南地区農産物加工販売組合（果夢果夢バザール）の取り組みを調査した。

伊都振興局の普及指導員と河南地区農産物加工販売組合の倉谷孝子組合長から桃狩り観光の概要等について話を聞いた後、桃狩りを体験した。

出席者から、「は〜との商品がこんなに沢山あるとは知らなかった。新商品ができれば、ぜひ買ってみたい」、「毎年、桃狩り観光しているとは知らなかった」などの感想をいただき、暑い時期だったが、元気をいただいた有意義な研修だった。



研修会の様子（龍神は〜と）



桃狩り体験



収穫した桃を箱詰め

農業士会支部活動レポート

REPORT

会員の研鑽と交流を深める事業の実施と女性部会の大活躍

西牟婁地方農業士会連絡協議会事務局

1. 第23回SUN・燦紀南農業者の集いを関係団体とともに開催

平成26年9月1日、紀伊田辺シティプラザホテルにおいて、「今こそ見せよう“西牟婁の地域力”」をテーマに、第23回SUN・燦紀南農業者の集いを西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会、西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会とともに開催し、関係者含め約120名が出席した。講演「ボランティア活動と地域活性化」（講師：紀州梅の郷救助隊隊長 尾崎剛通氏）と、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会のウメジューズと梅酢を使った梅スポーツドリンク開発の発表等を行った。また、交換会では仁坂知事から「和歌山の農業」と題した講話が行われた。



尾崎氏の講演



多数が参加



仁坂知事の講話

2. 研修会（管内、県外）の開催

平成26年11月26日、「ウメとの複合経営」をテーマに、現地研修会を開催し、関係者含め約24名が参加した。研修会は、管内の3箇所、研修①は上富田町岡地内のトルコギキョウ栽培ハウスで園主の岡本智郁氏（岡本由美子氏（地域農業士）の夫）から、研修②は田辺市稲成地内のJA紀南の温州ミカン「201」



研修① トルコギキョウ



研修② 温州ミカン



研修③ イチゴ（高設）

県内研修 テーマ「ウメとの複合経営」

関係園の東良彦氏園（地域農業士）でJA紀南営農指導課の榎本氏から、研修③は田辺市稲成地内のイチゴ（高設）栽培ハウスで園主の宮本正信氏（指導農業士）から説明を受けた。研修場所は、農業士の関係する園地でもあったので、会員各自の研鑽と共に会員の交流を深めることもできた。

また、平成27年2月12日、先進地研修を、滋賀県の近江八幡市内の農業生産法人 浅小井農園株式会社及び長浜市内のヤンマーミュージアムで実施し、関係者を含め26名が参加した。



県外研修（浅小井農園）

3. 第23回田辺農林水産業まつりへの出店（女性部会）

平成26年11月9日、田辺市扇ヶ浜交流広場カップークで開催された第23回田辺農林水産業まつり（主催：田辺農林水産業まつり実行委員会）に、女性部会が出店した。チャリティー販売として「梅ひじきご飯」を出品し、売上を芝峰女性部長からまつり実行委員会へ手渡した。また、芋もち、松茸ご飯、みかん等農産物の販売も行い地元産の農産物のPRも行った。



チャリティー販売

4. 平成26年度関西広域連合広域産業振興局農林水産部出前授業への協力（女性部会）

関西広域連合広域産業振興局農林水産部の地産地消への取り組みに女性部会が協力し、平成26年11月13日に、大阪府寝屋川市立神田小学校で小学校5年生86名等を対象に出前授業を実施した。和歌山県の「梅」についての学習（座学）、冷凍梅を使ったジュース作り体験とジュースの試飲、梅干しを使ったおにぎり作りを行い、梅のPRも兼ねた授業を実施した。



「梅」の出前授業

5. 平成26年度西牟婁地方農山漁村女性の日の集いを関係団体とともに開催（女性部会）

平成27年1月14日、田辺市民総合センターにおいて、「身近にある農林水産物に新しい光を当てよう」をテーマに、平成26年度西牟婁地方農山漁村女性の日の集いを和歌山県漁協女性部連合会たなべ地区、西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会とともに開催し、関係者を含め約50名が出席した。「西牟婁地方の農林水産物食材コレクション」の食材を使った料理を試食しながら、食材の生かし方について意見交換を行った。



食材の生かし方を意見交換

農業士会支部活動レポート

REPORT

東牟婁地方農業士会の活動について

東牟婁地方農業士会連絡協議会事務局

1. 農業士「食育」ナス収穫体験の開催

東牟婁地方農業士が中心となって9月11日那智勝浦町立勝浦小学校3年生56名、同立宇久井小学校3年生28名を対象に那智勝浦町太田地区でナスの収穫体験を実施した。

「太田のナス」組合員（地域農業士の太田喜文氏・杉浦仁氏、青年農業士の松本安弘氏、農業士OB平松宏規氏）からナスの特徴や栽培方法について説明した後、児童たちは収穫するナスの大きさやハサミの使い方などを聞き、収穫作業を行った。

天候に恵まれ、児童たちはきれいで大きなナスを収穫しようとは場内を何度も行ったり来たりしてお気に入りのナスを探していた。

収穫したナスは児童が思い思いの言葉を書いたポップとともに名前が入ったラベルを袋に貼り、2個ずつ袋詰めをした。児童たちは袋詰めの方法や袋に封をする機械に興味津々で、初めての作業に大喜びしていた。

収穫体験後には、ナスの流通についての説明があり、今回収穫されたナスが市場を通じて、なじみのある地元の商店やスーパーで販売されることを知って驚くとともに児童たちから多くの質問が出されるなど、農業についての関心を深めていた。



ナスを収穫中



袋詰めを指導する農業士



袋詰めされたナス



試食に集まる子供達

2. 東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会と共に農産物即売会の実施

11月23日、第38回那智勝浦町農産物品評会会場の那智勝浦町体育文化会館において東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会（石田 大士 会長、会員 10 名）会員による農産物即売会が行われた。当日は、東牟婁地方農業士会塩崎会長はじめ、地域農業士、青年農業士、4HC 員は、早朝から会場である那智勝浦町体育文化会館の屋外会場で、自家栽培された農産物や加工品の搬入、テントの設営などの準備を行った。

晴天にも恵まれ、来場者も多く、即売会場のテントには多くの人たちが訪れ、地元産の新鮮な農産物を買っていった。



農産物販売の様子



茶や柚子加工品も店頭に並び

3. 4HC、新規就農者、JA 営農指導員との合同研修会の実施

平成 27 年 2 月 10 日地域の担い手の新技術習得および耕作放棄地対策を目的に先進地研修会を開催した。

農業士、4HC 員、新規就農者、営農指導員ら 14 名が参加し、田辺市でイチゴ高設栽培及びハウススイエンドウ栽培、白浜町で JA 紀南における耕作放棄地対策の取組について研修を実施した。

稲成いちご研究会の宮本氏から、高設栽培の導入経過や管理状況について説明を受けた。

上芳養では木下氏からハウススイエンドウの電照による長日処理や栽培管理の取組について説明を受けた。また、JA 紀南指導部の田中部長から、平成 25 年 8 月から取り組んでいる農業経営事業及び農地中間管理事業について説明を受けた。

参加者は全体を通して肥培管理、病虫害防除、経営費、就農状況、JA 自ら農業経営し地域農業を支援する活動などについて熱心に説明を聞き、質問を多く有意義な研修会となった。



イチゴ高設栽培の説明を受ける



JA 紀南田中部長から説明を受ける

地域の逸品!!

紀の川市 (株) パーシモンの あんぽ柿

紹介者

紀の川市 指導農業士

小川 教雄

紀の川市林ヶ峰地区において、村おこし事業として「あんぽ柿」を生産していたのですが、高齢化によって運営が難しくなってきたことから、やる気のある若手グループに運営を引き継ぎました。そして、現在は(株)パーシモンを設立してあんぽ柿の生産を行っています。

1. 商品の紹介

商品は3個入りパック、1個袋入り、箱入り、スライスしたものなどがあります。あんぽ柿は、柔らかく、白い粉のつかない干し柿とされています。

カビが生えやすいため硫黄の燻蒸を行うのが一般的ですが、「(株)パーシモン」では水流法と温度管理などの技術でこの課題をクリアしました。

あんぽ柿は、糖度の高い平核無柿が原料のため、糖分が白い粉状につきやすく、「白いが一番旨い」と言われながら、白い粉をカビと誤解され売りにくい現状となっています。

そこで「(株)パーシモン」では、この課題に挑戦し、白くて美味しく、食べやすい干し柿の開発にも取り組んでいます。

2. お問い合わせ先

主に青果市場と農産物の販売会社に契約出荷しています。

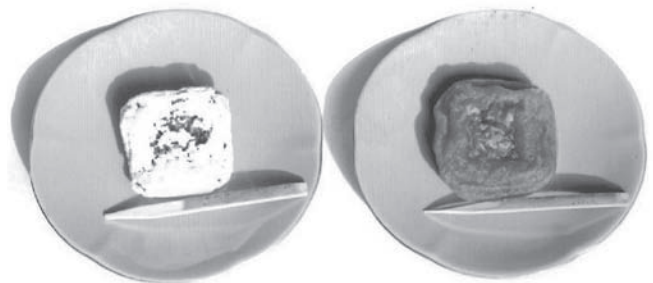
紀の川市内では「清州の里」で販売しています。なお、和歌山県のアンテナショップ紀州館でも展示販売を行っています。

株式会社 パーシモン

〒649-6602 紀の川市平野 1467-1 TEL: 0736 - 75 - 9567



あんぽ柿の商品各種



あんぽ柿商品の違い

左：表面に糖分（白い粉）がついた状態
右：糖分がついていない状態

熊野古道「紀伊路」で育まれた果実の恵みを食卓に じゃばら加工品

紹介者

広川町 地域農業士

長谷光浩

1. 商品の紹介

長谷農園は、有田みかんで有名な有田郡の南部に位置する広川町にあります。温暖な気候を活かし、柑橘を主体とした環境保全型農業を実践しています。

平成15年からじゃばら栽培に取り組み始め、生産したじゃばら果実については生果出荷に加え、ストレート果汁やジャム、マーマレードの原材料として使っています。他にも果皮を乾燥させ、細かいパウダー状にした果皮粉末があります。

果皮粉末は、ユズと同じように薬味に使ってもらうことが多いです。旅館の板前さんにも愛用されていて、天ぷらをこの果皮粉末と塩を合わせたもので食べてもらっていると聞いています。最近、このパウダーを活用した商品として、入浴剤の販売を始めました。

主な販売先ですが、道の駅やファーマーズショップ、ネットショップに加え、東京都内のスーパーや生協等でも取り扱っていただいています。



じゃばら加工品の商品各種

2. お問い合わせ先

〒643-0055 有田郡広川町井関611

TEL : 0737-62-4925 FAX : 0737-22-8890

ウェブサイト <http://www.kiijiya.com> (紀伊路屋で検索)

紀伊路屋わいわい市場店 <http://shop.wakayamaken.jp/kiijiya/>

地域の逸品!!

農業士が作る日替わり弁当 「すがちゃん弁当」

紹介者

田辺市 指導農業士

山本由美

1. 商品の紹介

西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会会員の立岩すが子さん（上富田町、地域農業士）の作る手作りおかずがいっぱいの日替わり弁当をご紹介します。

お弁当は、すが子さんのお名前から「すがちゃん弁当」という名前で1日40食限定で販売されています。予約は2日前までOKで、予約の場合は50食まで対応してくれます。

お弁当以外にも、炊き込みご飯やお寿司などもあります。

立岩農園のお米を使い、野菜もできる限り自園で栽培するなど、地域の食材を確保するようがんばっておられます。

季節によってその時期の味が楽しめる美味しいお弁当、ぜひ、ご賞味下さい。



すがちゃん弁当

2. お問い合わせ先等

「旨いや」

〒649-2102 西牟婁郡上富田町岩田 1649-5

TEL：0739-47-2525

営業時間：11:00～14:00

定休日：火曜日

(※前後する場合があります。)



立岩さん（中央）

農業士認定事業について

県農林水産業のリーダーを認定

平成26年度和歌山県農業士・グリーンワーカー・ 漁業士認定式を開催

和歌山県農林水産部農業生産局経営支援課

平成27年2月16日、和歌山市内のホテルで農業士・グリーンワーカー・漁業士の認定式を開催しました。

本式典では、県農林水産業の中核的な担い手でリーダーとして活動している81名（うち農業士は71名）の方々に認定証を交付しました。今回の認定によって、県内の農業士は902名となりました。



知事から認定証を交付

式典で、知事は「優れた技能を持ち、一生懸命取り組む人が地域を栄えさせる」と激励し、認定された方を代表し、有田川町の指導農業士 中井理自さんが認定者を代表して「地域の農林水産業の活性化に向け、より一層努力することを誓います」と決意を表明されました。

また、今年度で定年を迎えられる指導農業士30名の方々には感謝状が贈呈されました。今回、農業士の認定を受けられた皆様、感謝状を受け取られた皆様は次のとおりです。



長年にわたり指導農業士を務められ、感謝状を贈呈された方々

農業士認定者の皆様（敬称略）71名

指導農業士認定者 22名

氏名	市町村名
山田 哲也	紀の川市
川原 章秀	紀の川市
西口 靖	紀の川市
西川 静子	橋本市
廣田 哲也	橋本市
井上 公雄	橋本市
池田 泰子	橋本市
森口 佳幸	橋本市
藤井 栄一	九度山町
狭間 富男	九度山町
山本 恵造	九度山町

氏名	市町村名
松本 弘夫	有田市
堀川 幸俊	有田市
酒井 正子	有田市
森 一洋	湯浅町
中西 敦子	広川町
坂井 計已	有田川町
中井 理自	有田川町
山田 裕司	御坊市
夏目 庄一	御坊市
射場 慎一郎	上富田町
抜田 佐代	すさみ町

地域農業士認定者 28名

氏名	市町村名
榎本 友紀	海南市
辻岡 孝明	紀の川市
赤坂 和亮	紀の川市
中山 英樹	紀の川市
阪本 龍哉	橋本市
山本 武美	かつらぎ町
尾西 智子	かつらぎ町
海堀 善照	九度山町
酒井 能章	有田市
井上 芳信	湯浅町
三木 孝志	有田川町
岩倉 善嗣	有田川町
林 敏紀	有田川町
永石 盛宏	有田川町

氏名	市町村名
高垣 雅永	有田川町
三木 利光	有田川町
矢野 克己	御坊市
森口 裕隆	御坊市
川口 拓洋	由良町
小田 英幸	印南町
堀本 昌義	みなべ町
箱木 英樹	みなべ町
谷城 守昭	みなべ町
木下 和昌	日高川町
寒川 智史	日高川町
山下 優	田辺市
竹内 明子	田辺市
福田 淳	上富田町

青年農業士認定者 21名

氏名	市町村名
西山 幸佑	かつらぎ町
島津 寿明	有田市
寺嶋 和亮	有田市
岩崎 昌司	有田市
林 宏樹	有田川町
岩本 直純	有田川町
猪谷 浩司	有田川町
栗本 幸太	有田川町
木村 文俊	御坊市
竹山 純平	御坊市
齋藤 喜也	御坊市

氏名	市町村名
中川 善文	由良町
木下 宗久	印南町
橋本 智和	印南町
小田 辰則	みなべ町
上本 将伯	みなべ町
橋本 憲明	日高川町
三原 康弘	日高川町
橋本 祥吾	日高川町
東 浩志	日高川町
前田 純志	上富田町

感謝状を受けられた皆様（敬称略） 30名

氏名	市町村名
名高 俊一	和歌山市
増田 憲司	和歌山市
井戸 英兒	海南市
岩田 行恵	紀の川市
風呂谷 史郎	紀の川市
小川 博	紀の川市
大原 善行	橋本市
亀岡 康子	かつらぎ町
的場 延武	かつらぎ町
木村 恵一	かつらぎ町
森脇 俊視	九度山町
桑原 亜巳子	有田市
認田 至	有田市
坂本 耕一	有田市
西谷 悦子	広川町

氏名	市町村名
梅原 治	有田川町
栗本 孝彦	有田川町
森田 茂	有田川町
假家 久嗣	御坊市
北村 良雄	御坊市
里地 裕一	由良町
川端 和博	由良町
柳 健一	由良町
長岡 均	日高川町
山本 博司	田辺市
田中 一正	田辺市
玉置 俊裕	田辺市
金子 博子	白浜町
林 順司	上富田町
加味根 寛	那智勝浦町

農業関係制度の紹介

あなたの農業を応援します こんな時、制度資金をご利用下さい

和歌山県農林水産部農業生産局経営支援課

1. はじめに

ここでは、農業経営のために利用できる融資制度資金についてご紹介します。

借入の前には「用途」や「資金の必要性」「返済の計画」を十分に検討してください。

また、ここに掲載しているのは、平成27年2月19日現在の情報です。実際の借りにあたっては、下記とは条件が異なる場合がありますので、事前にご確認ください。

2. 各種制度資金

① 農業近代化資金

【融資機関：農協等】

農業経営の近代化を図るための施設や機械の導入に際し、農協などが融資する最も一般的な長期で低利の資金です。認定農業者など個人の農家だけでなく、農業への新規参入法人（要件あり）も利用できます。

貸付利率	償還期限 (うち据置期間)	貸付限度額	融資率
認定農業者 0.35 ~ 0.65 % 認定農業者以外 0.70	年以内 7 ~ 20 (2 ~ 7)	個人 1,800万円 法人 2億円 共同（農協等）15億円	認定農業者、エコファーマー等 県農業士、集落営農組織 認定新規就農者……………100% 上記以外……………80%

② 農業経営基盤強化資金（スーパーL資金）

【融資機関：日本政策金融公庫】

農協等では十分な対応ができない場合（資金規模が大きい、償還期間が長い、農地取得を含んでいるなど）の資金です。認定農業者のみが利用できます。

貸付利率	償還期限 (うち据置期間)	貸付限度額	融資率
0.35 ~ 0.70 % ※	年以内 25(10)	個人 3億円（複数経営 6億円） 法人 10億円（規模に応じて上限20億円）	100%

※ 認定農業者に対する特別措置

平成26年度において「人・農地プラン（地域農業マスタープラン）」に地域の中心経営体として位置付けられた認定農業者は貸付当初5年間無利子となる場合があります（ただし、融資枠があります）。

③ 農業改良資金

【融資機関：日本政策金融公庫】

農業経営の改善を目的として、新規作物の導入や新技術・加工販売事業の開始など、新たな部門にチャレンジする場合に借り入れることができる資金です。エコファーマー等が利用できます。

貸付利率	償還期限 (うち据置期間)	貸付限度額	融資率
無利子	年以内 12(0)	個人 5,000万円 法人 1億5,000万円	100%

④ 生活営農資金

【融資機関：農協等】

他の制度資金の対象外となっている方及び事業について、農協が融資を行う和歌山県独自の資金です。

貸付利率	償還期限 (うち据置期間)	貸付限度額	融資率
0.70～0.95	年以内 3～15 (0～3)	個人 100～600万円 法人等 700万円 特認 450～1,000万円	80%

⑤ 青年等就農資金

【融資機関：日本政策金融公庫】

新たに農業を始めようとする青年等が、施設や機械の整備等をするために借り入れることができる資金です。

借り入れには、市町村で青年等就農計画の認定を受けた認定新規就農者であることが必要です。

貸付利率	償還期限 (うち据置期間)	貸付限度額	融資率
無利子	年以内 15(2)	3,700万円	100%

3. その他・お問い合わせ先

農業協同組合から資金を借りる場合、和歌山県農業信用基金協会がその債務を保証する『農業信用保証制度』があります。詳しくは、農業協同組合等にご相談ください。

最新の利率等は下記のホームページをご覧ください。

(県庁経営支援課 <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/sikin/seidoshikintop.html>)

詳しくは、県（各地域の振興局）、市町村、農協等各資金の融資機関へお問い合わせください。

農業関係制度資金 資金別融資対象メニュー一覧表

(平成 27 年 2 月 19 日現在)

資金別融資対象メニュー一覧		農業近代化資金	スーパーL資金	経営体育成強化資金	農業改良資金	スーパーS資金	農業経営負担軽減支援資金	セーフティネット資金	青年等就農資金	生活営農資金
※●は対象(具体的な内容については異なる場合がありますので、相談窓口でご確認ください)										
施設機械	農舎・畜舎等営農用施設の建設・改良・復旧 農業用機械の購入・改良	●	●	●	●				●	●
	共同利用施設の建設	●			●					●
	保温用被服資材、降雨防止資材の購入									●
動植物	家畜の導入や育成 花卉・花木・果樹等の植栽や育成	●	●	●	●				●	●
	キノコの育成に要する経費 木炭製造に必要な原木の調達及び施設 内水面養殖に要する経費									●
加販工売	観光農業施設の建設	●	●	●					●	
	農産物加工処理施設の建設 販売流通施設の建設	●	●	●	●				●	●
	農地等の取得		●	●						●
農地関係	農地等の借入(地代の支払)	●	●	●	●	●			●	
	農地等の改良・造成・復旧	●	●	●	●				●	●
	ほ場整備やかんがい排水等の土地改良	●	●	●	●					
	住宅等の改良・取得をするとき	●								● (注)
生活環境	農業集落の給排水施設を建設するとき 農村に集会場等を建設するとき	●								
	新規就農・Uターンにより農業経営を始める								●	●
新規分野	法人で新規に農業に参入する	●		●						
	新たな部門経営を開始	●	●		●					
	農業技術・経営等に関する研修を受ける	●	●		●					
	新たな加工品等の調査、開発費	●	●		●					
	無形固定資産の取得、研究開発費	●	●		●					
他	農業後継者の結婚・研修に要する経費									●
経営の改善	短期運転資金					●				
	長期運転資金	●	●	●						
	営農負債の償還負担の軽減		●	●			●			
	法人経営の開始等	●	●							
災害	災害等による経営資金						●		●	

(注) 高齢者及び農業後継者対策の場合に限る。

(参考) 農業士について

昭和51年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士(65歳まで)」「地域農業士(60歳まで)」「青年農業士(40歳まで)」の3つの区分がある。

平成27年3月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	168名	(うち女性 24名)
地域農業士	570名	(うち女性 67名)
青年農業士	164名	(うち女性 1名)
合計	902名	(うち女性 92名)



表紙の人

有田市 指導農業士

藤田 哲弘さん

(和歌山県農業士会連絡協議会理事)

藤田さんは、温州みかん主体の果樹専作経営を営まれ、中晩柑の導入や品種更新により労働力の配分に力を注ぐとともに、多目的スプリンクラー導入による省力化を推進されています。

また、地域では農業体験学習等の食育事業にも積極的に取り組まれています。

和歌山の農業士 第4号

発行日：平成27年3月

編集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印刷：有限会社 阪口印刷所



和歌山の 農業士

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

